

畧譜

日

杉浦

二百十一冊の内



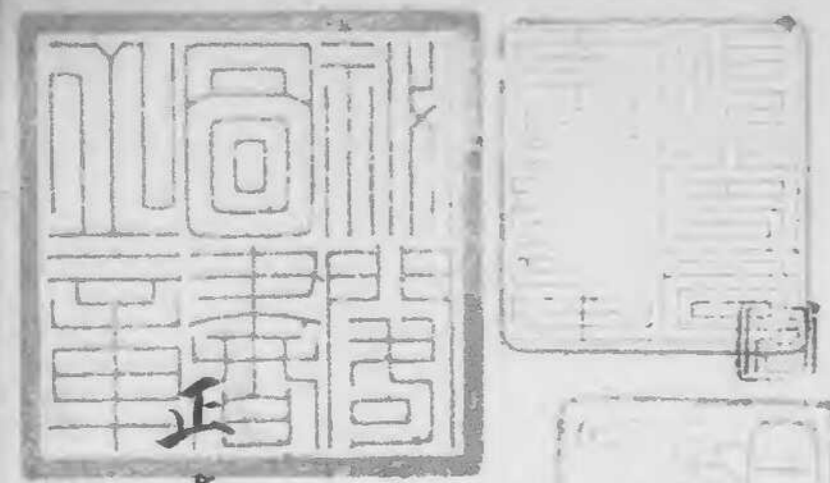
内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(203)
函號	156 17

共七



147
595

東照宮御代



松浦

平姓

言八子石

家紋 九星

松浦八郎又郎政重惣松浦大郎
又郎政次之男松浦延一郎親貞惣
松浦長九郎親次之男

正友

内親允 越後守 市左衛門

市左衛門

文祿三年月日

記録御用所

東照宮上初見○孝長三年秀吉公
薨去之也

東照宮伏見津丘城有年位○同八年
上杉景勝謀叛有下野五山伏見
○石田三成逆意有上方水袋向伏
見○同十九年大坂水陣伏見○元
和元年大坂水陣伏見○同四年日
本五千八百餘○相別之月有米知六
百石餘也○

右德院殿津代赤地夜物之皇子晉

石○寛永三年八月十九日水上浩

寛永

同十九年伏見叙壽一七越後抄也○

同十九年土月九日二月三日御定額加秩

子名○孝安元年月日品名在

為常加秩石子石成○

二年正月十二日病免○万治元年

六月十日病免石子石成○

老料得入○寛文二年九月

九日死八十六歳法原中叙中

長教寺の事

正照

内藏元 市右衛門 市十郎

実同姓忠左衛門親俊二男

解養子。寛永七年月日小僧
食禄二百俵。同十年二月廿
日百石相成。同十一年六月廿上洛の
儀。同十二年四月日先社兼供
年。万治元年六月十日家持。同

二年二月七日甲府水邊。同年四
月十八日出陣。同三年九月七日御
。寛文三年月日上野火。同
八年月日中川水邊。同八年宵
十日水邊定年。同年十二月二
宗樹院殿十七回水邊。用法。同
。同十二年二月六日天樹院殿七
回水邊。用法。延宝三年
六月八日本理院殿一回水邊。用法

事未用。同日年八月又具言教院
清遊云云送清用。同六年八月
又日言教院殿三四云云送清用。
用。同八年同八月廿日云云。
同年十二月廿八日送与。天和季
二月六日天樹院殿十七回云云。
未用。同年四月廿日友村三子儀
と来池二百云云。加格。成。約。り
實祿八子云云。成。貞享元年
十二月廿日大奥向清年男。同二

年二月廿日持姫君紀別上入雲

同日八月廿日。同年十二月十一日

元祿元年十二月廿日。又日。同

同二年男。同二年持姫君。同
同十年十二月廿日。同
同十二年七月廿日。同
同年八月十二日。同

常憲院殿 根子代 兼 攝政

之 乃 孫 清 菴 孫 又 乃 孫 欽 書 敏 上
○ 同 年 四 月 八 日 死 八 年 八 歲 同
寺

正植

然之助 市十郎 市十郎

兼 應 二 年 十 月 廿 八 日 初 見 ○ 延 享 二
年 四 月 十 一 日 死 八 年 八 歲 同 寺

正職

出雲守 内務元 市十郎

實正植也

延 享 六 年 十 月 六 日 初 見 ○ 元 祿 十 二 年
七 月 六 日 初 見 ○ 同 十 三 年 四 月 廿 日
百 人 組 之 長 ○ 同 年 十 二 月 廿 一 日 布 衣 ○
室 永 八 年 同 正 月 十 八 日 初 見 沈 沈 以
○ 同 年 三 月 九 日 叙 壽 出 七 十 五 ○ 同
年 四 月 廿 八 日 大 工 郎 殿 四 段 五 百

水白髪能とせし、水祿後、
内後三根、平根と賜ふ。同九年九月
朔日、駿府に書水腫。同六年四月
晦日、駿府より使志と云、大五郎殿に
御覽一飾能と。同八年正月十日、死
年一歳同寺

正奉十五

出雲守 内亮元 集人

実同姓武吉清政令六男

宝永八年二月廿九日、養子家清。○
同六年六月廿日、初見。○正徳二年二月三
日、上玉、高内方甚之郎と云。同
又年、天樹院殿、又十四、水忌、水法寺
中、勤書。同六年正月廿日、上屋敷下
屋敷、敷焼、水忌、内方甚之郎、後
大久保、主書、水須、替作、同。同
年六月廿八日、火消役。享保元年
七月廿二日、布衣。同二年正月廿二日

大方之在骨打有痕貴時後。同
年六月。同。亦。好。同。七年。又。月
九。水書院書。同。年。十二月。十八日
叙。青。出。也。考。及。水。野。之。若。騎。馬
勢。子。作。付。之。手。後。亦。野。場。少。之
不。持。之。青。毛。馬。涉。登。格。之。化。之。後
秘。守。之。之。名。作。付。之。手。之。一。月。水。一。瓶。
相。細。同。年。二月。廿。六。日。令。涉。行
修。年。同。年。四月。廿。八。日。危。州。上。之。使。
同。上。年。二月。廿。七日。小。合。亦。持。修。年。骨。

折。身。翌。日。内。後。之。錫。入。同。年。八月。
廿。八。日。大。水。番。頭。同。年。七月。廿。五。日。
亦。水。同。年。八月。朔。日。
禁。裏。上。八。朝。之。涉。使。之。勅。也。寬。保。三
年。四月。廿。日。死。五。十二。年。同。年。

正和

内苑元 弟刀 豊元

元文二年三月十九日初見。寛保三

年六月二日家持。延享二年十月
十日死二十六歳同寺

正勝

丹波守 出雲守 豊元

延享二年同十二月二日家持。宝曆
三年十二月六日初見。同六年八月
十日駿府加當國。同年十二月廿
日小姓。同十年七月十八日叙壽出雲守
。明和元年七月廿九日卒同年日死

白。於々

東照家百子十四沖忌初會万部執約長
沖用作身。同十年十月廿八日
亦小性組番以。同三年八月廿二日
勢子。同二年四月
十八日亦書院番。同六年八月十八日
亦書院。安永五年
禁裏上八親。亦使。初心。天明四年
十月廿日沖例。同八年十月廿日

後明院殿清筆美管、博之沖画好成。同

年十二月十八日亦小袖好成。同六年

十月四日

後明院殿清出権之休年同十八日清石

亦小袖二亦惟子二亦麻与下一具亦蒙附

与下一具亦草与下一具亦好成。同年

十月廿五日清遺物之亦法國正

利白鞘亦好成。同年同十月廿日

是近之通之勅名。同七年四月廿日

將軍 宣下相海三月内後之御入。同

年八月三日清神亦好成。之

縮緬亦卷之揚入。同八年二月廿日

亦理髪亦好成。之縮緬之卷好成。

寛政元年二月八日清婚礼亦内好成

海三月亦好成。之縮緬之卷好成

○同年四月二日海姫亦清証生亦好

成。之縮緬之卷好成。同四年

十月十八日

若君清亦直三月同上。同年十二月廿日

福元、男合。同八年八月廿七日册
之改。

正僖

専助 市十郎

実水野を改す忠見三男

寛政二年二月廿六日解養子。同八
年十月廿八日初見。同十一年三月
十二日心腹之態を以て実水野と改す

東照公御代



松浦

高子又百石

平姓

家紋 丸に内三つ
三つ

葛原親王御子高見高望分出松平
八郎義國八世之孫松浦八郎五郎改
重の惣次大八郎又郎改次四男

久勝

久三

惣次郎

三洲少く初年より

東照宮に侍るに軍功ありし永祿六年
三洲少く一向宗一揆の付兄右具と
たよ上和田より忠功と勵む時
三洲の木村少く食祿と賜ひし自
當り清院より載。元龜三年上
月廿二日在州味方原の一戦の付大久保
七郎右衛門忠世の馬を中り馬り
くろり付久保秋高と七郎右衛門の
換く久保院より故く敵陣に突入し

敵一騎討捕を馬の系由より敵氣
来久保院より向合防戦後相、向忠世
右より首下馬と見え大に其勇功と
賞し三洲を言徳

東照宮に侍るに久保秋高 沖前家 沖威
の教令。天正二年四月遠別乾合
戦の時清定の子と望大久保七郎右衛門
多し属し軍功ありし教令不承と云
○同二年長篠の陣侍る。同又年

信州伊良波一戦に信年。同十二年
四月九日尾州長久之子出合戦の時軍
功と稱す。清盛公と稱す。同十三
年同八月。信州上田城攻の時久
孫大久保忠世。子。角。味方利と
名ひ退く。款慕。年久孫殿とて款
と稱す。味方善く。陣せり。
天正十八年相州小田原陣信年。
信年長久孫。信州上田城攻の時大久保
相持。子。角。旗年。約。款。とて

旗と進め早く屏際へ付る候

右儀院殿清旗奉行の西軍法ヲ背く由

尸取ニ付早々旗とて曳揚る名相持

尸取とて之も一旦附ら旗一曳揚

成功版ニ及りた名成る名と区産

不成揚成大久保相持子同加名子

父子及難儀中と兼是故地ありと

同年九月七日功版寸を改

東照宮御上洛の時天下に武功の立ハ

天正十八年相州小田原陣信年
信年長久孫相持子角

大久保相模守家の松浦惣左衛門
長右衛門 徳河守 河内通智の孝忠
左衛門 元年信別上田守 水軍法
と守り 功版せしむる守 守内守水
憤怒のこころ 彼勇士の如き なたの
法よそむく 大朝守く せぬ 悟り
と 守り 守り 守り 守り 守り 守り
習の孝威 威し 威の威と 一發
守り 守り 守り 守り 守り 守り
功版守 守り 守り 守り 守り 守り

恩寺發

平太夫

久成

天正九年八月言乞 祢中一戦の討大
久保七郎 守り 守り 守り 守り 守り
の 守り 守り 守り 守り 守り 守り
別小田原陣 守り 守り 守り 守り 守り
守り 守り 守り 守り 守り 守り 守り

生害の後大久保お掬を遊し
大坂の陣の何か加賀守幼少三月介
抱と杉の道か加賀守忠秀家
○寛永十八年八月死

十を侍

久真

^{正真} 長五郎父生害の後相州大正
鶴居の同十九年冬大坂の陣の由
とゆらく二條より松浦市十郎

あま面合の何大森守十郎
月知人と成まより西元守とを
辰戸新松平加賀守陣不本安
房のあより知人三月信地守
志らく陣屋と備用の月

東照宮上意の松浦惣兵衛守十郎
唯今の何方より守と西守三月市
十郎清徳守十郎守十郎市十郎
方と西守清徳守十郎守十郎

くしりしつゝのハ尋ふこと上意あり
依く市十郎市七郎家へと出
大之守あゝ尋出す時、桑田のふ
てお湯とゆい親、似く大之守と
望らるゝ上意あゝ此化向後清例なる
るゝと作と事あり、松平右衛門佐橋浦
市十郎あゝあゝ介抱すつゝあゝ作
身ゝゝ又只是たあゝあゝ上意二月
足平あまの久保加賀の忠孝若
年二月介抱と頼の是は在り長承

郎ハ押付あゝあゝ辰之上守長五郎ハ
三洲長崎あゝ尋湯す〇元和三年
大坂夏陣仕な桑田のあゝあゝ
て大之守故老の割長坂魚津森
市七郎十之助久あゝあゝ津馬の
たゝ方守護せしとあゝあゝ何れ
〇大坂落城あゝ陣のあゝあゝ
藩人のあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

浪十板家御人。少海陣の時所
岩橋少く志之程の故郷見奉り
まじし少海と揚人。元和二年少
池界の故

台極院御了事位。寛永九年大書

○同十年二月加秩まじし四百石

成。○同十一年六月廿日水上海徳年

宿別の段。○同十年ハ三ツク清足年約

○兼延二年十月十九日死七十五歳

四首理性寺に葬

久元

長五郎

元和元年石巻に在位。駿府に
於て水産中納言頼房郷に附
○寛永十七年十一月廿日死

改清

大陽守 武彦勝 市彦勝 改任 安休

久幸 改幸

寛永八年九月十八日初見。○寛永
 九年五月十八日。○同十年二月七日
 新領二百石。○同年八月五日
 川少く。○同日十二月十日
 月七日板橋に。○同日勤仕。○同日
 十月十日。○同日。○同日
 四月新領。○正保四年五月十八日
 水小納戸。○二石。○同日。○同日
 徳少く。○同日。○同日
 九月十日。○同日。○同日

り。○同日。○同日。○同日
 身。○同日。○同日。○同日
 二石。○同日。○同日。○同日
 清。○同日。○同日。○同日
 沖。○同日。○同日。○同日
 石。○同日。○同日。○同日
 汗。○同日。○同日。○同日
 水。○同日。○同日。○同日
 中。○同日。○同日。○同日

曾○の曆三年正月十八日教牒二月
金平不為持飲。同四年三月六日
少人組為以。同年十二月加秩百
石。同月廿八日布衣。寛文元年同
八月五日

常憲院殿に附くは新親之子不納り
是迄九月七百石と熱飲市之儀
納り別家あり。同年十二月教
拜大陽寺。延宝五年四月八日不
川中殿あり。鶴姫若清誕生水胞夜

細く水紋作付くは女流、同姓兵九郎
改盛了作付くは主節

常憲院殿より、水盆時辰好飲。同年月

日鶴姫若白山、水社系所代。同七年

五月より、津徳院殿清誕生有養

目、水紋作付くは女流、二男兵九郎

改盛勤くは七巻、水紋儀の所

常憲院殿清子早小治の自東國後代水紋子取好飲

○延宝八年五月二日、水移徒二月

祚田清殿とある御位。同九年十月
 五。久々。氣。く。も。て。加。賀。子。石。御。成。
 降。德。院。殿。清。例。作。付。る。○。天。和。三。季。
 七月七日。元。久。○。貞。享。二。年。十二。月。
 十二日。致。仕。言。曰。子。石。の。内。三。子。五。百。名。
 八。二。男。兵。九。郎。と。多。知。五。百。名。二。男。九。
 十。五。と。御。く。る。兵。九。郎。五。百。名。五。百。名。
 の。養。老。料。は。御。く。る。○。元。禄。十。年。九。月。
 十二日。元。久。二。年。下。谷。池。に。瑞。福。成。
 寺。に。發。

大徳院殿清筆和歌く水鏡冊掛物一幅
 常憲院殿清筆五祖糸画掛物 二幅對
 常憲院殿分水鏡刀 糸圖後

右三京御位

政令

市立橋

武兵衛

別表とるる

改盛

大隅守 山内守 兵九郎 又吉坊

万治二年十二月廿八日初見。宣文

元年同八月廿五日

为憲院殿上附。是日同月廿九日。原米五石

依約。同二年。月廿九日。奉命。高五

年勤。休。内。日。光。泚。公。代。九。夜。○。寄。合

○。正。室。又。年。四。月。八。日。小。石。川。殿。少。中

勤。勤。若。泚。誕。生。胞。衣。納。之。紋。父。系

勤。○。同。七。年。五。月。六。日

清徳院殿清徳生有墓目之紋父改

清勤有女流作有。同八年五月

二九、水移徳以坂

清徳院殿附西九勤。泚。逝。云。以。坂。云

合。○。貞。享。二。年。十。二。月。十。二。日。家。終。○

元禄十二年三月廿八日。内使書。同

年六月廿六日。尾張中納言殿。逝。云。有

水戸上使。同。年。同。九。月。十。日。一。統

水。救。約。時。根。之。音。板。得。成。○。同。年。四。月

六月廿六日大坂御所同日七月朔日
西陽殿五年二月十八日御得寛
永二年八月廿五日後府御所同日
三年正月十日西持筒院。宝永五年
十二月九日山陰守御所同日叙爵山
城守。正徳五年六月廿九日辞免
男合。同年十月十日叙位左大臣
料二百俵。享保六年正月二日
八十二歳大塚守侍与葵

改英

改長

兵部左近外記 惣左衛門右衛門

延寶六年正月廿七日神田清殿少
常憲院殿上初見永子自出賀汁以裁。
宝永六年四月六日西書院高。同八
年五月六日乘馬上覽正徳元年
五月十日乘馬之儀。享令一叙。同
年十月十日家持。享保五年十二

月二日死享年九歳中在福成寺葬

改武

金助 主簿 兵九郎

实 大正保明子或臣 秋浦平定久長之男

享保五年十二月廿九日家持少男
○同六年二月廿九日初見○同九年十
月日水書院番○同十一年三月廿
原所將騎子勢子○元文元年十二
月廿九日死享年九歳同男

好改

仁三郎 大守 被仁 快休

美同姓出守子正奉三男

養子○元文二年二月廿九日家持少男
合○同年三月十九日初見○明和八
年十二月七日被任○安永六年四月
朔日死享年三歳同男

改辰

主膳

修理

明和八年十二月七日家持寄合。
安永元年六月十日初見。○寛政
七年十月十九日馬場上院西浦邸
物於裁。同八年九月廿日乗多上
隨

東照文津代



松浦

高七百石

平姓

家紋

丸目三ツ引
五ツ折は菱

松浦八郎義國十代松浦大八郎

改次四男

久積

惣左衛門 久三

東照家上代任軍功河内。○永祿六年

三別一向宗門一揆の討見者貞

と云ふ上和因少能く忠切と感
くく會福と約ハ清直筆と
内院又及裁手故大久保七郎右衛門
忠世の旗下のりる。元龜三年十二
月廿二日幸別味方原山合戦の時大
久保七郎右衛門忠世の馬矢中て
誰一耐久精已のりるといふ久保
歩約を成て敵陣に突入一騎打
捕某のりるに其約の途中、敵慕
来しハ防戦し、傍相の御りるを

首をひきとると七郎右衛門忠世
ハ一方に勇切と賞し上りて
有し久保感懐と得。天正二
年四月六日幸別乾之城と天野玄
内左衛門の致し時忠世は加賀防戦
して敵を斬りてのり。同三年三
月長原山合戦時。同五年
幸別伊良津一戦時。同十二年
四月九日尾形長久守山合戦の時

大久保相持守より屬し戦功あり
しりて津威物とゆふ。同十三年
同八月二日信別上田より城に攻め附
味方利と考へ退りし。久保殿
て味方恙なく陣すといふ。同十
八年山田原に陣せし。春に去る
年信別上田より城に攻め初大久保
相持守忠隣子に屬し。其年終
とあり。其と進め早く城に攻め
と

右徳院殿津藩本。其軍法より考へるの
多し。其三分早く其揚より相持守
より一尺が、敵城に附て何れか
る。其と考へる。其年終味方にて
系より其空く。其城に揚り附敵
慕ひありし。其より合せ打敵し
陣す。其より大田軍令に背の反
上意あり。大久保相持守も同か
父子難儀。其より久保陣中より

て功胸守年二千二歳を指

東照宮沖上洛より即今天下を武功
の士は久保深相授け武松浦忠丸
忠つよくありし上は此列の道智
と名大忠丸忠つよの先年西軍法
背き功胸ありて上せしむ
沖愈怒れしは勇士の継令法
と名ひし大忠丸とつよを惜しむ也
らまししふ道智の由る感涙す
はよし一族を侍りし命の難を

と名感るといふ

久成

年表

東照宮上皇位天正九年二月廿二日幸
別宮天神社一戦し討大久保七郎を
忠世より辱しし名阿比。同十八年
相州小田原水陣仕年。若長を
信州上田より父日害の故大久保

相持守家。○同十九年大坂
陣のとき大久保加賀守忠任初
雅二舟舟抱し頼より難黙心忠任
うあふまふ

久真

十名場

長五郎九月七日父に害の及
大久保相持守忠清のあふまふ。○
同十九年正月相持守左遷の後

相持大守の勢在。○同年冬大坂
陣のとき大久保加賀守忠任初
市十郎西友宅に在りて其席に
大森守七郎在りて右の人此
の手に在りて紙の底に在りて其
守利は忠臣印多安房守紙依舊
知尋至同人陣不在其名也
忠臣守七郎相持守のあふまふ
猶代々忠多ふく中三茂松浦忠房

子能可^レ有^レ今何方^ニ在^ル也
上^ニ意^ニ在^ル故浦市十郎^ノ愛^レ得^ル也
惣^レ在^ル門^ノ二男^ノ十^ノ之^ノ勝^レ成^ル也^ノ以^テ私
宅^ニ尋^ル耳^ノ今^レ致^ル所^ニ在^ル也^ノ名^ノ尸
因^レ馳^ル矣^ノ後^ニ大森^守七郎^也在^ル
在^ル上^ノ少^シ以^テ名^ノ市十郎^ノ及^テ守^{七郎}也^ノ久
真^成ヲ^テ相^尋名^也作^付列^於法
之^子尋^也依^上意^久真^成於^案的
山^津陣^也

東照^{天皇}初^見之^時刻^上意^ニ在^ル也^ノ故^也

又^中之^津向^後津^例一^名也^也和^平
右^患之^依故^浦市^{十郎}也^ノ久^真
成^也抱^テ依^上意^也作^付具^也又^汝也^也
有^レ也^ノ下^ニ在^ル也^ノ津^守也^ノ久^真也^ノ
足^平也^也成^也久^保忠^任也^也知^稚
女^抱相^於也^也難^然也^也忠^任也^也
在^上也^也長^也也^也押^也也^也
在^上也^也其^後長^也也^也津^浦陣^也
之^也於^之例^也是^也行^也津^浦陣^也

元和元年夏大坂西陣信年於
柔白山色清光中礼仕有^て子刻
長坂無陰大森守七郎十^と夏
夏

東照宮清子出^た方^に在^る守
護形勢清光^と上^意と^る也○
大坂落城西陣^の後大坂方落人
^の所^に在^る會^は依^り於^り又^も志^すと^る久^し真
有人^は作^り付^けた^り元和元年^に獲^れ浪
十^と板^と物^と々^と○西^の陣^の御^二別^一是^の傍

丹^の志^の祖^の之^の故^の郷^一是^の名^と上^意と^る也
里^の水^の味^の物^と々^と一^と思^ふと^る行^は文^の信^年
○元和二年四月十七日

台徳院殿^の同^年月^日出^納戸^の段[○]
寛^平九年^の月^日大^水番[○]同^年
年^の二^月四^日百^石海^の段[○]同^年一^年六^月
月^の清^上洛^の信^年宿^の別^の段[○]同^年七^月
年^の月^日清^具是^の身^の段[○]兼^意二^年
年^の二^月十九^日死^七千^八百^八十^日也

理性寺子系

久元

惣兵衛 長八郎

元和元年月日

東照宮に石出の道年仕立の段原
於て水戸中納言頼房の口調

改清

久幸 改幸

大隅守 武吉清 市吉清

寛永八年九月十八日初見
九年八月日大正番
七年新親三百石得り
言品川に於て水馬持と勤心
十二年十月七日板橋に於て水麻
將と勤し
同平年四月新坐
○正保元年釋寺野
此年より新所番
と借るは御又津馬前、大正の子

貞徳多と迫る勅在事の山平丸屋
改清之入く右水貨捨とくく
寔留の同三年三月日水野野伏
在由子沖館 入沖水食倍と在
地蔵有し一有山平丸沖使作有
り是沖馬英日附二人の山平丸
孫借揚鞭良内宅 城美古宮
間より於く山平丸沖使作馬と山平丸
孫し其不た對する有澤白紅葉心
沖宮 沖佛殿之丸 沖宮未別業

玄池丸

上殿有院殿沖機垣 其の留不山平丸
度辰沖語を其の在 西為有在酒
并紀傳有枚浦内親元杉平底在り
其目月交城級有る其の外高水高
番以未未席と其の在 其の別退出
其の由事田細村と樂寺最少く
沖駕身孫と其の沖服と物野依海
中根次郎在事と其人 其の在河部

年正月十八日教養育令早子
 相成。万治元年三月六日半令
 ○同年十二月廿八日加秩二百俵。
 同月廿八日布衣。○寛文元年同八
 月十一日祓田清殿西家先作付
 新親之子石別家。作付。是年
 七百石。嫡子市之橋改令上
 大猷院殿冲筆本免画本掛物一幅
 鴨菊忌画 揮墨筆 一幅
 漢臣右沖花入 一

右少納戸勤致中相成

改令

武之橋 市之橋

正忠
 享安元年七月十九日初見。○兼
 三年二月廿七日出書院書。○明曆二
 年十二月廿日唐米之音儀初見。
 寛文元年同八月十一日父改清新親
 三子忠初見。同年十月廿日父忠

同年同九月十日令七千八百餘人
○同十四年正月十一日水光子實以
○同年十二月十八日布衣○正德二
年六月朔○病死○命令○同日存
六月廿六日病亡○享保二年六月
二十日卒一歲同寺

順隆

一玄坊

寬文十二年八月十八日初見○元祿
六年十二月九日水光子實以
年六月廿六日病亡○享保二年
三月廿六日卒一歲同寺

正義

十玄坊

水光子實

實水野小左衛門守重二男
正徳四年二月廿六日卒一歲○

享保三年三月廿日家持小
名彦信。同日年十月十八日永世經
。同日年十二月十八日西九附。同日
六月移。永書院者。同日年十
月九日死。六十之氣。同壽。

正續

武彦信 惣平郎 輝五郎

實同姓八郎。又郎。信照二男。
享保十九年十二月廿日。輝五郎。

延享四年十二月廿日。永持小名
彦。寬正二年八月九日。西九附小
姓經。宝曆二年三月大の上院
内。後二。同日年八月三日。西九附
。同日年五月廿七日。病死。小名彦信。
。同日年八月三日。被仕。同日年
八月十日。死。六十之氣。同壽。

正悦

十三番 十三郎

實同姓十兵衛正表二男

宝曆壬午年九月廿四日養子。明

和元年八月三日家法。小吉信。

同年同月廿四日西北小性組。

同八年四月十五日。水戸氏助。○

元年五月廿六日。卯九助。○

同十月廿七日。卯九助。○

元年六月三日。卯九助。○

正安

武吉橋 岩助

實同姓高木氏。原達二男

天和四年十月廿七日。解養子。○

寛元元年八月四日。家法。小吉信。○

同年六月二日。小性組。○

十日

若石附

信長君沖代

大八郎



叔浦

了五百石

平姓

家紋

丸角横三ツ
丸角三ツ

一品或部卿高原親王後胤三浦大助
義明子叔中太郎義宗長男三浦
和田在左門尉義盛八男叔中八郎義
國叔浦及義國八世後胤

改重

八郎五郎

信忠衣に奉仕

改次

大八郎五郎

信忠衣に奉仕為に戦功ありと云ふ事

数ふ不慮と云ふ事

清康君より奉仕せし事地記にあり

右貞

大八郎五郎

清康君
廣忠君

東照宮に奉仕。弘治元年尾州蟹江

城攻の時大久保新八郎忠信同甚

田郎忠貞同七郎右衛門忠世同源

左衛門忠依河部同郎五郎板浦大

八郎五郎右貞同八郎又郎信右

軍功あり世に名は解き江七右衛門

守。永禄六年三河上郡田一向宗

門一揆に付大久保一族を以て勇功ありしに感懐并加恩と奉色と給ふ

八郎五郎

勝右

廣忠君

東照宮に奉仕。弘治三年二月廿日参
別日進。於て相平右京亮吉春
討死の初酒井左衛門尉忠次清直
八右衛門大久保又郎左衛門忠務曰

甚右衛門忠佐眞勤吉美阿部曰所又
郎忠政太原左衛門右衛門八郎又郎
後君と云ふは福金の子と云ふ。永
禄二年今川義元の抱尾川右衛門の
城を糧乏しく及難儀と云ふに款陣與
今川家より入志あり義元

東照宮に御頼大なる儀兵糧乏しく難儀
及ふに之を以て入志ありしに御物成
を糧清入御と云ふに御頼有る并

四郎左衛門内藏基又左衛門内四郎
左衛門石川十郎左衛門八郎又郎太
見の母は老しる各款の堪と謀る
今日兵糧入不可付と申すより
八郎五郎侍者一人早速兵糧可入
申す上せしむ

東照公御名に侍者一人有甚潤
早速兵糧可入申す所は小若松
十匹兵糧二年俵附と申すは張紙
焼二年又挺と小若松の事は了る事

八郎五郎侍者侍二年人足押三年人
百連入し一は大切と魚石に火炎
炎と事あり 三三 向宗門一
檢の付者員侍者一執同本和同
とく大久保一同の忠切と願ひ
元龜三年十二月廿五日遠州味方原
少く

東照公御退陣西陣勢致意の訓
又八郎五郎侍者殿作付し

めくれず

四郎左衛門内夜甚又左衛門内四郎
左衛門石川十郎左衛門八郎又郎又
見の母は老しつゝ各款の堪へ謀く
今日兵糧入石可付と申す上りつゝ
八郎五郎孫者一人早速兵糧可入
申す上せしと

東照公御名に侍者より有甚得
早速兵糧可入申す所は小若松
十匹兵糧二年俵附しり二年又張次
抱二年又挺と小若松の事は了と云ふ

八郎五郎孫者侍二年人足將三年人
百連入しり此大切と云ふに云々

永禄六年一向宗門一
揆の附者貞徳者一類同本和同
と云く大久保一同の忠切と願ひ
元龜三年十二月廿一日遠州味方原
かく

東照公御退陣西陣勢敵乞の討負
又親八郎五郎孫者又殿作所より

神我功くく 中宗 と と 水 松 花 の
水矢根 二 年 二 と 徳 義 に 約 す と 正
三年八月廿七日参州長原表水一
我の付久世三郎坂部三平郎八
郎五郎水三軍高名池水部
水道具と約りの八郎又郎の二年安
城長を水水と約す。同又存
遠州伊良水一我の付殿作付と
と我切と水賞又のりて清感状
と賜ふ。同十二年長久寺水一我の付

軍功と屬しと上父存貞と同方た
右の臂水と射撃とた水と
名守依と水感状水と水執持水。
同十八年關東沖入國と付参州水名
と内水と替地約りととと名長坂小
刑部と作付とと水吟味の上同九年
八月二日相別水とと水名稀水
印陰表水と水作付ととと水病水
有地小在村と退去の字水久保

長生寺の如染師在寺の上使あり
加探子五百名揚くるべき事作らる
病年廿二歳及元江戸に紙汚漬
可傳名の上加探大久保相持等
預置く病年廿二歳元江戸に紙汚漬
晴古小男實効在寺の同助を揚
看病くして傾地山在村あり不
得名女子あり男子あり二月有
人云大久保相持等近よりハ
東照寺清月庵に元江戸に紙汚漬

長生寺の如染師在寺の上使あり
九日死於他山在村の如染師
如染師の如染師在寺の上使あり
久病と聲養ふべき事作らる
百名と仰入

勝重

八千郎

東照寺に初少の事仕永禄三年又

月水将下野守信元参羽前屋城
外十八町園我の村太久保又郎左
目七郎在参つ石川新九郎在参合
の村討死

勝次

八郎又郎 久亮

羽前
三樂

実松浦平太夫之威婦男

东照系

台徳院殿、奉仕。大所番。長十九

年大坂冬の陣侍年。元和元年
大坂夏の陣、八侍見城守。水
陣、以後侍見城三年と書。

东照系

台徳院殿、少番。河越、水野、野場
石と野呂文左郎、人少く、巡見。其
後、石見、但馬、金山、と檢使。寛永
四年、武別、老岩、山官、清、建、三、所
在、の、三、ヶ、年、勤、仕。

名徳院殿

大猷院殿 清上洛の侍年。寛永七

年二月元方中令年約。正保三

年四月病死。小重徳。寛文五

年四月六日。致仕。坊子。八右史。病所。分

二勇太郎。在。三。家。三。譲。三。日八

年八月十八日。死。年一。氣。清。長

致寺。三。矣。

勝重

八右史

寛永七年六月十日。初見。同月

廿四日。より。毎月。あ。夜。宛。水。性。身。

位。同。年。十二。月。朔。日。大。所。番。同。九

年。迄。至。是。の。月。金。瓜。湯。の。同。年

十二月。之。廣。米。百。俵。約。三。同。年

年。加。積。二。百。石。相。成。同。年。八。月。之

品。川。中。之。馬。持。と。勤。心。同。十。三。年

十月七日板橋より小麻村に勅し。○
言由ありて兼了致勅し。○同十八日
月日病免小名多信。元禄四年四月
九日病免身兼他由に十人只給入
○同十三年七月四日死。享年六十九歳。若
中佛心寺に葬。

侍長

八郎又郎

没位 元入

寛文八年二月八日初見。○同年四

月六日家終。○同年同月廿七日金書
○貞享二年大坂に毒を内中金書
領付後二日死。○同三年七月十二日
寫土見番以。○元禄十四年二月廿日
免免。○同十六年十二月十八日没位
○宝永六年十月四日死。享年九十九歳
同寺

勝照

八郎五郎

新五郎

道平

突同姓武之勝改令 男

天和二年十一月廿二日養子。貞享
元年八月廿二日初見。元禄四年
十二月二十日大所番。同七年十二月
廿二日大番改養金子取。同十一年
六月七日蓮池少々乗馬作付々々。
同十二年同九月十日水救金二千
兩好取。同十二年九月十日飯田

町々々乗馬作付々々。同十四年四月
廿九日權町々々傷少々乗馬作付々々。
○同十八年二月廿九日大所番組込。
同十六年十二月十八日家持。同月
廿二日加秩二百石。享保三年二月廿
五日二月廿二日院之職引渡御用。同
年二月廿七日津島院殿祀別々々々
向信年作付々々同年五月九日
廣坂千枝。享保六年十二月廿八日

水之子也。法純院。同年十二月廿日
布衣。同九年三月廿日。以有盜賊
博愛改。同十年二月廿日。加役法
免。同十二年八月廿日。未四月日
之。世在作。同二十年同三
月廿日。米念。計。以。自。新。書。以。次
以。同。將。米。念。福。之。郎。威。和。遠。之。
同。年。八月十八日。出。叙。少。人。少。曾。信
入。同。年。八月十八日。出。叙。少。人。少。曾。信
保。二年七月廿六日。叙。位。〇〇。宝。曆

又年四月十日。死。八十八。葬。同。寺

勝成

新太郎

享保八年七月廿日。初。見。〇。同。十。八
年九月七日。死。三十一。葬。同。寺

勝包

八郎太郎 半郎

享保十八年十二月十二日初見。寛
 保二年七月廿三日家徳小普信。
 同二年三月十八日田安勤番。延享
 元年十月四日勤番清免。同二年
 正月廿三日一橋屋勤番。同九年
 月十二日小性組。同九年八月廿日
 初解了傷少之跡射上院令之教
 ○同九年七月晦日水馬好成。同九年
 四月十二日吹上跡射上院令之教好成
 ○同九年同十月十日吹上跡射上院

好成好成。同九年十二月十七日水馬好成
 ○寛延元年十二月十七日水馬好成。
 同二年三月廿三日吹上跡射上院令及
 物好成。同九年十月廿三日一統跡射
 上院令之教。同二年三月十日吹
 上跡射上院令及物。同九年七月晦日
 吹上跡射。同四年七月十二日一統
 小普信。宝暦二年二月廿三日書
 院令。同九年七月廿日死同令

勝尚

八郎五郎

宝曆二年十月二日家持少曹信
同又年正月三日初見。同十年九
月十日大所為。同十二年四月十日
新所為。安永元年六月十八日病死
小曹信。同又年十月廿七日死早
一某同寺

勝愛

八郎五郎 万五郎

安永元年十月廿七日家持少曹信
。同二年十二月廿七日大所為。同四
年六月十七日新所為。寶文元年
七月五日病死少曹信。同六年三
月廿七日中里少之某子少所為。

台徳院被贈



叔浦

言又百名

平姓

家紋

九角三升
又石川菱

叔浦惣左衛門久持二男十三歳久真
惣左

大隅守

武吉

市三郎

安休

安休

改清

寛永八年九月十八日初見。同九
年八月日初見。分大所書。〇〇〇〇

月廿五日加授三官。同十年二月廿
或百名御人。同二十年四月日新
○正保元年八月十八日水納戸。○
永應元年八月日中興。○四曆
曰年三月六日十人。同年十二
月廿八日加授三官。同月廿八日布
衣。○寛文元年同八月十日神田
水家先叙作。○新親之子石物
○同年十二月日叙青方。○同
○同年十二月日叙青方。○同

七年八月廿六日

降德院殿冲德生。所養目之叙作
付。同十年二月廿七日叙。所叙御

为憲院殿冲子。自出服。名。其國後。其
好。所叙

降德院殿。出服。拍。大和。創。長。代。奉。拜
前。上。○延宝九年三月八日加授。子。之
物。之。り。

降德院殿冲德。○天和二年七月

又日祥免小名重信。貞享二年十二月十二日。没仕家。其二男兵九郎、
三男左衛門、分知。元禄十年九月
十一日死。年十二。葬于谷地。増福成
寺。又葬。

改令

武吉甫

松浦武吉甫西安之家

改盛

大隅守 三九郎

松浦修理政盛之家

改信

左吉主

^{改信}寛文三年三月廿三日。初見。同年
十月十九日。亦小姓組。同八年十二月
廿五日。唐来。二首儀御人。貞享三年
十二月十二日。亦知。亦百石。宝永八年

七月十八日死。年七。葬。後。子。壽。院。院。
地。中。玉。泉。院。下。葬。

改職

市左衛門

元祿六年十二月九日。中書院書。○
宝永二年二月廿二日。進物。大書。○
同。元。年。正月十日。西丸。方。出。立。院。當。尺。
組。進。物。書。西丸。中。書。院。勤。心。一。書。
○同。元。年。九月廿九日。家。傳。○宝永

六年四月十日。進物。大書。○享保三年
七月。進物。大書。病。死。○同。七。年。又。月
二。日。病。死。少。老。書。信。○同。十。八。年。九。月
十七日。死。子。十九。年。同。寺。

改職

市左衛門 市二郎

享保十八年十二月二日。家。傳。少。老。信。
○元文二年十二月。同。少。老。信。組。實。

延和元年七月十一日。同日小倉重隆。安永
二年三月廿七日。小倉性祖。安永七年
十一月十日。小倉重隆。天明元
年八月甲子。即位。同年十二月廿
九日。八月。同日。同日。

改爲

小膳

龜之助

天明元年八月甲子。家傳。小倉重隆
○寬政元年十二月十日。同日。同日。

同守

改記

右膳

寶朝。宗。宗。女。盛連。男。

寬政元年十二月廿七日。卷子。家傳
小倉重隆。同日。九月十八日。中書院
書。○同七年三月八日。小倉重隆。延和
馬。○同八年三月十日。上。大。の時。後。二

東照文沖代
高五百二十石
家紋
三木川
九曜
裏書

東照文沖代
高五百二十石
家紋
三木川
九曜
裏書

東照文沖代



松浦

高五百二十石

平姓

家紋

九曜
三木川
裏書

松浦藤次郎時務二男

吉成

吉成

東照文沖代。高五百二十石。松浦藤次郎時務二男。松浦陣場近江守同國原水陣佐守

奉命と仰入。同十九年大坂水陣
付年の所津軍水程冊付込物分
亦出りたりよの上意少く亦事片
之修ね成。元和元年大坂水陣依
年。同二年

名徳院殿附。寛永十年

大徳院殿より加杖五百石付込。同三
年又月十石死七千歳小日向新具
寺より發

正名

東照宮

長楽の 長茂

名徳院殿沖代水迫寄。大坂水陣

付年。寛永十二年水程。大坂

。同十七年六月十日水程。大坂

同十九年二月上。加杖三百石八

百二十石。凡三百石。男平右衛門

知。同二年九月廿九日死。享年
五十九。

吉備

興千郎

寛永二十年。家持少書院。由。
○病歿。少書院。寛文十二年十二
月廿五日死。享年一。葬。武。別。於。後。部。
野。志。田。村。南。宗。院。二。葬。

直勝

長左衛門

延宝元年七月十日。家持少書
院。○享和元年二月廿七日。少書院。由。
○元禄元年十月廿日死。享年一。葬。
同。

孫長

宋女

元禄元年十二月廿日家持少将
诔。同二年同正月十八日初見。同
十三年二月廿五日西書院書。享
保六等十一月廿日死。年八歳。布衣
長子等。小孫

後信

右左衛門 万三助

正徳三年十一月十八日初見。享保六年
十二月廿七日家持少将。同十一年曾

廿二日。西書院書。享保九年十二月廿
二日死。年八歳。同寺

勝貞

長門守 少将 長門守 安太郎

享保七年十月十八日初見。元文八
年十月廿五日。西九水小納戸。同年十二
月廿日布衣。享保元年九月廿日
西九水小姓。享保二年九月廿日

少平北執同年十月十八日叙拜長
門守。宝曆十年三月八日家傳
○同年八月十三日二九止宿傳
○同上年六月十二日

信院殿憲法二月落髮作僧。同
年八月四日納戶。同十二年上
月七日少平入院。安永四年七月廿
五日少平出院。同八年二月廿
日方盜賊改高令加役。同年六月
廿日加級少平。同九年八月八日

孝恭院殿冲廟番勤一。同七年
○天保八年二月十日
後明院殿冲廟番勤一。同七年
改八年二月廿九日死。同七年

勝明

頼母

延喜三年八月三日新親王
承平三年八月三日

叙爵侍従方。同八年八月。之家
侍。同九年七月。女。奥。少。之。大。的
上。院。及。物。同九年同七月。女。之。西
九。而。小。納。戸。同九年七月。之。西。尾。在
小。姓

勝義

安太郎 哉助

実務員二男

寛政九年六月。女。之。西。尾。在。同。年

十二月。女。之。初。見

東照宮御代



松浦

平姓

家紋 九曜

高八百石

松本太郎義宗長男三浦和留在
門尉義盛八男松浦八郎義國十世
孫三河必松浦義左衛門四男

親後

忠左衛門

享長七年新親石出さふ。左衛門

同九年米額二百石納入。同十二年
依是二年為。元和八年加稅二百
石。同九年依是而減米石是三月
水乾没作付。同九年七月。寛永
元年七月。近相勅。同二年。伊丹右衛
と。あ。立。合。法。結。定。没。と。作。付。と。り。
同年。七月。後。是。久。令。請。忠。丸。出。人。
津。原。前。了。右。通。法。承。心。より。納。入。
令。根。年。約。す。と。り。而。令。有。り。と。り。安。
元年。十月。出。先。子。出。後。地。以。加。稅。百

俵。約。り。八。百。石。と。成。○。以。曆。二。年。月。日。
病。死。告。命。○。寛。文。元。年。二。月。廿。二。日。
死。年。葬。法。寺。本。新。古。地。内。長。壽。寺。
了。發。

親成

忠右郎

元和九年。月。日。出。先。性。組。○。寛。永。元。年。
月。日。廣。米。百。石。納。入。○。同。九。年。

月日並加授三官不而承唐承承地
少皆幼くして三官五年不拜候。同十
三年月日大出番。寛文元年月日
家持五身三官五年不候。寛文元年
七年四月十九日死。七十一歳。同寺。

親友

忠右郎

延宝七年七月九日。家持小菅信。
同九年月日大出番。元禄元年

九月。死。六十一歳。同寺。

親相

実

忠右郎

忠右郎

浦心

元禄元年十二月廿日。養子家持小
菅信。同二年二月十日。大出番。
同十年六月十日。病死。小菅信。夏
深八年十二月七日。被任。家持信。

八月甲子死。年九。葬同寺。

親愛

又左記

實是部古佐吉久徳七男

宝永八年二月三日。年九。葬同寺。

又年十二月七日。年九。葬同寺。

八年二月廿八日。年九。葬同寺。

地蔵庵。年九。葬同寺。

十月十七日。年九。葬同寺。

満偶

忠左衛門 杉之助

元文元年十二月廿九日。年九。葬同寺。

○寛延三年八月十日。年九。葬同寺。

九年十二月十五日。年九。葬同寺。

令一板。○元文元年四月廿三日。年九。葬同寺。

組。○同八年九月十八日。年九。葬同寺。

同寺

義通

右左衛門 龜右

實松浦強二郎貞舒二男

明和六年三月廿四日。養子。安永

七年三月朔日初見。天明八年十二

月二日。改姓小當。寛政五年

十月十九日。小當。改姓世活。天明

九年十一月廿七日。大。改。〇。

安永八年八月朔日。王子。筋。改。〇。

右中里少々。生。の上。見。互。物。と。物。と。

清康名沖代



松浦

高八百平石

年姓

家紋

丸角横三ノ目
鞠挟

松浦大八郎又郎政次之男

親貞

孫一郎

新よ下出さす

清康系

廣忠系上代仁成之軍功あり。天心

十又年十月廿二日三別野田少之戦
死三年又歳

親次

孫一郎 長久保

廣忠表上在任嘉年分教交出陣之
侍年。元龜元年江州姉川少之
勇戦と。同三年十二月廿二日
味方原之戦より敗と成り。天正三
年八月廿二日別所原少之戦より

河津と。元和四年九月十九日死年
三歳

忠綱

孫三郎

小糸氏政上侍

親正

孫一郎

東照宮上奉任。天正十二年長久保

陣付年。孝長八年下野國守
那波津陣の時

台徳院殿に侍存。同國々原に侍存。
同九年九月十日。死。享年一歳

重次 孫に在るつ

孝長十八年。孝長十八年月。紀伊
大洲に在るつ。侍存

親務 孫に在るつ

孝長十四年。及び大加番。元和元
年。大坂の陣に侍存。寛永二年九
月。初之末地。三百石。不効。侍存。英
御朱。官。成。侍存。同。年。十。月。廿。日。加。禄
百石あり。同。年。六。月。九。日。加。禄。二
百石。侍存。の。美。子。百。石。成。西。保

同永九年九月廿七日死五十四歳相摸
東郡小和野村知所不屋敷内公安

親明

孫一郎

寛永七年六月廿初是同日廿四日
年位与 同永九年十二月廿八日
○同九年十二月廿八日
御入。同永
名德院御沖遺令相成。同十年二月

七日加授二百名常々五年来唐来と来
此母夢御入。正保四年十二月廿日
家持与是近々来此の懐云父の来
五百二千石と賜入。孝安三年日
光永社来宿別出用。同永八月廿
日永保在御。同永十月廿二日
不之志与死。寛文九年七月廿
二九日与在御。同永十二月廿八日御
夜。同永二年月日友村来地少々

二百名納りし事、元禄二百年石段
〇貞享三年十二月廿八日、元禄
二百年〇元禄二年三月二十七日
二景、後家印、就守、長教、寺、
發

親久

虎之助 市左衛門

寛文二年九月十八日、新親、石、
子孫、詳、

是道

虎之助

兼、元三年七月十日、初見、〇万治二
年七月十日、小性組、〇寛文八年十
二月廿八日、病、免、小、夢、後、〇元禄二
年八月十八日、死、年、八、歳、同、寺

貞宣

延一郎 三之助

實是道惠氏

寬文八年十二月廿二日嫡孫永祖
元禄二年七月十日家傳少吉
信。同六年八月十九日西書院書
○同十年三月六日丹波京津城引
濱津用同年四月十四日西書院
九月廿八日西書院。同十二年八月廿
一日西書院。同十六年正月十八日
少年人氏。同年十二月十八日西書院。
安永八年九月廿八日西書院高松氏

享保八年十月廿二日新法書院。
同九年十二月十八日西書院。同十二
年六月廿二日死。同十二年三月同氏。

貞隣

孫一郎 孫又郎 一得

實同姓者六郎親時 男

正德四年二月廿八日養子。同年八月
七月初見。享保十二年八月廿二日

中書院書。○同年九月四日家務。
同十九年十月十日中書院書。組。以。
元文四年三月廿三日志村節進為持
騎了物。子。德。多。時。後。二。延。亨。元
年九月廿八日清定。子。法。純。氏。室。
曆七年七月廿八日西丸。所。持。自。以。明
和三年三月十日先免。德。多。時。後。
三。○同年八月十日。被。任。養。老。料。三
百。俵。○安永三年六月廿七日。元。七。千
九。并。同。也。

貞舒

孫一郎 長一郎 得女

享保十八年十月十五日初見。元文
二年九月廿七日

兼表。沖。家。系。之。弟。騎。馬。信。存。○寬。延。二
年十二月廿六日。中書院書。○室。曆。十
年正月廿六日。進。物。中。書。○同。十。一。年。十
月廿六日。沖。代。替。清。親。式。勅。一。千。五。百。

内後云云御入。○明和三年八月十日
家傳。○同四年十月二日武州川城
城引渡津用。同八年三月十八日水
眼。同年四月朔。内福。安永八年
四月日先冲社系騎馬位年。同年
六月廿四日水院院。同年十二月十日
布衣。同六年十二月廿八日病免
合。同七年十二月十日致仕。天保四
年二月十日病免。同九年同支。

親
暁

孫一郎 与一郎

明和八年三月十八日初見。安永七
年十二月十日家傳。小書信。天保
七年十月廿二日水院院。寛政十
七月六日病免。小書信。

大猷院殿御代



○ 長浦

平姓

高四百五十石

家紋

九曜 九月二日
裏考

長浦長左衛門正右二男

平右衛門

長勝

寛永二年十二月廿二日知二百石。考

安二年十二月廿二日知二百石。寛文元年

十月日新永番出足米五千俵あり。

同十年十月十日小納戸同年十二月
日布衣加秩二百俵賜以室福也
百五十石と成。

岩野院殿養治以後一國寄合。元禄
二年五月廿九日死。年一。京市衣
長延寺。女。安。

○小納戸勤役申取浦の文字と
以行。御筆と納戸

勝順

平八郎

長茂

平左衛門

正室六年三月廿九日小性死。同
四月廿三日俵賜。元禄三年八月
六日。死。享年。五月七日。病
死。同十六年八月廿日。死。年一
歳。小島。就。困。子。安。

某

夜九郎

二男公出末等、石物、凡の富永四年
七月廿八日記市ヶ谷長延寺藏

某

侍之忠

水書流毒詳相日。正徳二年八月廿
日死、年幾同寺

勝春

平右衛門

実富永一学直史二男
享保二年四月十八日葬養子。同
十六年五月九日家法。同十八年六
月甲田安勅高。同二十年二月朔日
勅高法絶。同年四月十六日長持勅高
。寛保二年六月甲石堂夜原是一

少力好从。寛延二年十一月廿八日死
五十八歳同寺

勝満

四郎三郎 求馬 平左衛門

寛延二年十二月廿二日死
○宝暦元年八月廿一日
年四月廿八日新少高。○同日
七月廿九日死。年七歳同寺

峯高

又次郎

宝暦五年正月十八日徳徳院殿、
石出。年二十五年八月廿一日
明和五年六月廿二日死。年七歳小日
向龍岡寺。年五歳。母家田安。互

勝徳

辰之助 求馬

實平田守之忠尚賢之男

天保元年十二月十日卒。年七十一。同日

年十月七日。家傳。小曾孫。同日卒。

八月七日。大正。寬政十年正月。女

六。右。取。在。高。少。之。死。早。年。二。年。大。取。

寺。所。起。善。寺。發。

勝興

孫之丞

寬政二年六月八日。二男。忠。次。同日卒。

年四月。四。家。傳。少。曾。孫。

東照宮沖代



松浦

高野百儀

平姓

家紋

丸角横三ツ川
丸角三ツ川菱

松浦大八郎五郎政次二男

時勝

後次郎

廣忠君

東照宮上代仕為に軍功ありて沖代

御所守。永禄六年三州上和國元

一向宗一揆に即兄公郎五郎在員
とあり、宗統は其属せし戦切に付
つと。天正十三年十二月廿二日
長持城石川伯耆守と頼重と
は心替りして左衛門秀右一揆
長中城と成り、其のとき書状に
一月時待速に馳参しとあり、伯
耆守逐電せり、と云、殊に法
具不押留ありとのう、後進せし
津國、とあり。同八年相別山田衆

陣のたか多他集つと云、是國侍
城と頼重と、同一年十二月廿二
城内に死す、とあり

則務

後次郎

天正三年幸別長篠と云、武田信玄
と信玄の討父子信守と云、長
年下野國少と云、近出陣せしと云、石田

信部少輔三威送意よそ

東照文園西御殿向三月

右徳院殿、信部の同十九年大坂西陣の
時強戦して、敵と相争ひ且たりのちみ
決死争ひし三月三朔の信部少輔養
生寺。元和三年江戸に在りしと
稱す。よりくは、輝久郎、從
ちりしより、元初雅少輔、又は輝を
後江戸、出るとし、元會成送、のち
是地收管せし、是、慶長、同、千、儀、月

傳と揚い、萬、五、是、之、死、由、る、事、傳
らる。寛永十七年二月八日、七千
九、景

勝治

四郎左衛門 千郎

元和八年二月初見、寛永中、父、祖
の軍功と、考せし、是、新、の、二、百、儀、約、ハ
是、父、列、傳、の、家、相、續、河、の、可、し、し、

清熙命と云ふり大正四年作有る。
同十年月日加秩二百俵。同十一年
七月八日病に死す。自叙二十人
儀を以て長教寺に葬す。

勝定

信三郎 采女 亦在る

二輩の河父死せしに海武約りて
求新終りて祖父後三郎刻勝定
引き置き後伯父采女在る勝定

取末子守

勝乗

亦在る

寛永十六年二月十日初見。同十七年
二月廿九日新親二百俵約りて亦在る
御符有る。明暦三年三月日月俵
十人約りて。寛文年中加秩百俵
得りて月俵の由也。享保七年正月

加祿百俵。天和三年二月言亮先
小菅信。元禄六年四月朔日死。年一
歳同寺。

勝盛

与左衛門

常憲院殿沖代右少将仁勲。元
禄八年二月言亮。年九歳。同日言

勝奇

与左衛門

長左衛門

常憲院殿沖代之男。忠从。元禄六年
七月日。家信。小菅信。同九年言
言亮。年八歳。同日言。

勝定

与左衛門 宗女 亦左衛門

家新終の娘。伯父宗左衛門。信兼の末
子。寛文二年三月十一日。同日

源氏

常憲後殿子孫福一正安八年十月廿
新日石出子孫別家

後利

半左衛門 源五郎

實同姓孫不左衛門後房三男
元祿九年七月九日解表子家持小
曾孫。同十四年十二月廿六日
○正徳四年八月十日二條五郎

正七郎

勝昌

後左衛門 左門

正徳四年十月廿三日家持小曾孫。
享保十四年二月廿七日大出番。家持
二年十二月廿九日大出番組長。同十
年十月廿日相番榊原源五郎出仕
並作月々於二條五郎

おき一統の月見を急ぐ格日月
おきを急ぐ事況。安永三年四月
女九。死六十二歳長子女子

勝亮

主膳 幸右衛門 杉三郎

宝曆八年四月廿二男惣辰。以和
八年二月十日。初見。安永三年
七月八日。家傳小曾孫。三如三年
二月。早大所為。

勝興

後右衛門 夜馬

実務昌四郎

寛政七年九月。養子。同九年
二月十八日。初見。同十一年。四月。女九。
藝術。出精。有。人。也。

大勲院殿



松浦。

平姓

家紋

九曜
九月三十一

高三百儀十人技師

松浦右左衛門右衛門

重勝

新在

正保四年十一月廿八日

○寛文六年二月十八日

元禄二年四月九日

○元禄九年元禄九年。寛永六年十月十日
死。年九。葬小日向。龍之子。葬
○孝長十九年。大坂西陣の時。父在
成。拜。成。西。經。冊。寛永十年十二月
老。百。重。持。讓。更。今。元。不。持。

勝明

元禄四年十二月二十日。大坂。書。元
元年八月九日。大坂。物。方。同六年十二

与惣右衛門

誠心

月廿五日。家。元。享保元年十月十日
病。死。少。重。法。同八年十二月廿六日。被
仕。同十年七月十日。死。年四。葬。甲
川。東。克。守。子。葬。

勝安

織部

寛永六年四月廿六日。大坂。書。元。保。幼
弟。享保三年二月。病。死。年。唐
年二百。保。元。同八年。有。

廿六日死。年四。小日向。龍光寺。葬。

兵部

勝美

初常敬 重隆

享保五年十二月十日二男惣次。同八
年十二月廿六日。家督小菅信隆。同九
年八月十二日。甲府勤番。寛保五年
七月廿六日。甲州。光寺。葬。

勝負

与惣右衛門 日格 忠藏

寛保小川新右衛門 盈長 二男

元文三年十二月十八日。卷子。寛保三
年十月廿六日。家督。甲府勤番。寛保
三年四月初七日。上。初見。宝曆九年
六月。對。小菅。改。在。浪。十。又。板。寛政
元年四月。死。小菅。信。在。令。二。板。同

年九月之六日死。年七十。葬江戶谷中區
寺後

貞周

左膳 半十郎

正徳八年六月廿二日。男。惣次。寛政
元年十二月六日。故。甲府勤番。同
二年十二月廿七日。死。年七十。葬。甲州。東
光寺。後

満貞

新右衛門 半十郎

実徳貞三男

寛政二年十二月廿二日。故。甲府
勤番

大猷院殿神代

抄

必理

高七十俵五人持



源姓

家紋

濁功角有之也
丸月考

甲斐國任人余麻野屋左衛門政長

神谷市之傍

久改

大猷院殿神代出位經氏神谷市左衛門の

善子成り正保三年二月七日出位下

持道子坂市左衛門之善子出位二月

乾養子之難也。此後之難也。○孝安
四年

大猷院殿薨。御二月日。先卜。入棺。二月落
髮。值在。○万治三年八月十五日。死。岩
龍谷寺葬。

久孝

安玄清

母方苗字と稱

延享七年七月。上。御。元禄十
年十月。帝。降。御。御。正徳二年

八月廿八日。御。目。同。六年。同。二月
御。定。名。源。安。房。上。總。下。總。御。是。御
用。享保二年。御。目。御。藏。少。御。小
御。信。同。千。又。年。十二月。御。任。同。十
七年二月七日。死。御。年。同。寺

久寛

古玄清

宝永四年九月。上。御。享保十三

○同年六月甲別川、水害修用
同年七月廢浪七枚。同年九月日
光津社系水用。同年十二月あふ楊掛
水用。廢浪十枚。同年同月田安
姫衣あふ掛、水引物、水用廢浪五枚
○同八年正月七日、日光表、水浸登
水用。同年四月日光津社系修用
廢令千あ別屋あ向浪三枚。同六
年七月日光
津家水修復見、水用令千あ、同年

十二月廿九、上別世良田、津家水修復
出算栄見、水用廢浪五枚。同七年
二月十日小菅修用。同八年二月

孝恭院殿津葵送津用。同三月水修殿
津靈屋向水修復水用。同四月水葵
送所用水廢浪十枚。同九年六月法
修後出算、水廢令三枚。天保三年
二月上野、津宮ああ水靈屋向水修復
水用。同年十二月廢令三枚。同

盈永

文左衛門

安永八年十二月八日初見。寛政四
年七月三日家持小督信。同八年
二月八日引下勤中。出流目月。同
七年二月三日小督信。同八年十月
九日後継院殿廟不位牌石高。出
出月後浪十枚。同年十二月廿
五川島海寺。津成之院去園向之介

出流後出用後浪七枚。同十年二月
廿七日。二九流殿向出後浪出用。同年
月七日。流流出用。出流後浪
浪五枚。同年十月十二日。大奥出廣
出長尾出。出流後出用。後浪
十一年三月。二九流殿向出流後浪
出。後浪令之枚。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

信院殿



秋浦

平姓

高二百俵

家紋

九月横三川
裏書九曜
三杉川菱

秋浦右衛門信信二男

勝明

勘次郎

頼母

有無

延享三年八月方新親石出元

萬次郎殿近習番現米又千石二千

人日納人。同四年七月方夏治物

康慶時後河原。室曆六年二月
十日第次郎殿出略五段。同七年上
月十五日用人作有之。二百儀。
之儀。同年十二月十八日布衣。
同九年十一月廿九日第次郎殿出
階。同十二年七月十五日小性氏
兼段。同十二年十二月三日馬掛。
同十二年正月三日第次郎殿出略。
又年正月十日青次用人兼段。同
八年四月十日泊書也。是日掛。

安永二年二月十日第次郎殿出略
又年正月十日青次用人兼段。同
九年十一月廿九日第次郎殿出
階。同十二年七月十五日小性氏
兼段。同十二年十二月三日馬掛。
同十二年正月三日第次郎殿出略。
又年正月十日青次用人兼段。同
八年四月十日泊書也。是日掛。

受自念情之方。同年十月朔
情涉之。寛政元年十二月廿八日
就任。同年六月廿九日
帝名長延寺

勝福

九門 大膳

安永元年九月廿五日
性。三の元年四月七日
八年八月十日

十二月廿八日
迫留番取。同七年七月八日
遊去二月同十八日
月廿六日
遺令二年
清水
月八日
廿八日

西用五板作行々。同年十二月廿日
廢浪五板

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

秋浦 高三百俵

平姓 家紋 丸に内横三ツノ

秋浦武主清政令之男



友之助 与七郎

典治

延享七年八月七日津南沈殿水姓。同年

八月廿七日傳并人口約入。同八年

十二月廿七日西丸、修年。三和元年

三月廿二日
三月廿三日
三月廿四日
三月廿五日
三月廿六日
三月廿七日
三月廿八日
三月廿九日
三月三十日

元禄十三年二月廿一日
元禄十三年三月廿一日
元禄十三年四月廿一日
元禄十三年五月廿一日
元禄十三年六月廿一日
元禄十三年七月廿一日
元禄十三年八月廿一日
元禄十三年九月廿一日
元禄十三年十月廿一日
元禄十三年十一月廿一日
元禄十三年十二月廿一日

久孝

勘治 与七郎 三樂

实 松浦平太夫久長三男

享保又年二月十一日
十六年十二月二十日
文二年十月廿六日
曆八年十二月廿八日
九年十二月十八日

月十九日死六十八歳同寺

政繁

又五郎 又在集

实石原部在集の安種之男

宝曆六年十二月廿七日養子。同九年十二月十八日家法小菅信。同十年六月十日出家信隆。同十二年十二月廿八日死四十八歳同寺。

好忠

三太郎 武部五七郎又在集

实同姓太字好政二男

明和元年二月又日葬養子家法小菅信。同九年八月廿四日西元。小性。安永二年十二月廿七日病歿小菅信。享和元年五月二十日西元。西元院番。同六年正月廿七日歿。

大納言殿附

大納言殿附。寛政二年四月
二月廿九日勤。同日午時十一日
衆戶心助。同日午時十一日
内振之。同日午時九月廿七日
上院附服二。同日午時二月廿日
原水將。同日午時八月廿日

大納言殿附

高之百俵

平姓

家紋

九月廿日

正成

正成

正安二年。月日。石出。建。二百俵。納言

清揚院殿附。大納言組。寛文元年

月日加秩百俵。同六年正月十九日死
小日向龍具寺發

勝房

孫又右衛門

寛文三年月日攝田沖殿、右少左
水姓組。同六年月日家持。元
禄八年月日出使役。同十二年月日
甲府出立子役。宝永元年月日
文昭院殿西丸、沖入、右相、右中書。

同三年月日病免小普良信。同日卒
十月七日死。年七。葬同寺。

勝譽

教馬

致仕
松声

元禄八年月日攝田沖殿、右書院番
。宝永元年月日
文昭院殿西丸、入、右中書、右少左。
同日卒。年十二。月日家持。同八年月日

日西九納戸。○正徳元年七月十八日
桐名出番。○同三年五月十八日桐名
出番。○正書院番。○享保十二年四
月日病免。小普請。○元文三年十二月
六日改任。○寛保三年八月廿七日死。七
十四歳。同寺。

勝征

庄名 常力 後次郎

元文二年十二月六日改任。小普請。

同三年八月十二日西出番。延享二年
九月朔日
大納言殿附。○宝暦八年七月廿九日卒
三歳。同寺。

勝里

庄名 要人 五左衛門

宝暦八年十月四日改任。小普請。
同九年二月七日卒。小姓組。同十年

十月十一日病免小菅氏。明和二年
八月七日西九水小姓組。同九年六月
十八日病免小菅氏。安永八年六月
月廿七日書院為。寛政七年二月
吾小令原水將少幼穉子。

大猷院殿沖代



叔浦

高二百五十俵

平姓

家紋

丸内横三ツ川
三ツ川菱
九曜 表苔

叔浦吉左衛門吉成三男

勝者

十在席

大猷院殿沖代石出と道原米二百俵

揚つる大由為と命せらる。

大猷院殿沖代水納戸。寛永八年八

月形死小日向就真寺三發

勝治

又郎左衛門

教有院殿

常憲院殿御代新次高。秋徳。加

秩五千俵。元禄五年十二月十二日

死同寺

勝長

新十郎

元禄六年十二月九日大坂高。同

十二年月日家徳。同十六年月日

病死小坂高徳。享保二年八月十日

死同寺

勝政

十左衛門

伴織

享保三年十月九日家持小菅信
○同十二年十二月十九日大内高○同
十二年十二月廿七日西丸内腰物方○
同十七年二月十九日新内高○元文
元年七月八日病免小菅信○延享
二年正月廿九日西丸内納戸○同四
年八月廿日西丸新内高○同八年
八月十九日病免小菅信○宝曆八
年十二月十九日没位○同十二年十
月七日死同寺

勝盛

又郎左衛門 伊三助

宝曆八年十二月十九日家持小菅信
○同九年四月又日大内高○同和
七月十九日死同十七年同寺

勝重

伊平左 伊三郎

文徳改三男

明和六年十月六日養子家清小名
清。同年十二月廿六日大出。同八
年十二月日死。新出。安永三年
七月廿八日病死。小名清。同三年
六月廿七日乙年山崎維敏助伴菊
三郎出奔せしと知りし。是後
此後味の上通。同一年十月六日通
寒。清死。乙卯元年八月十日死。
新出。同二年二月廿日病死。小名清。

同年十二月六日即位

勝定

伊予助

了徳二年十二月六日家清小名清。
寛政八年十月廿八日初見

大猷院殿神代

秋浦

平姓

秋浦茂次郎則勝次男

家紋 九曜 九月三日

勝成

源左衛門

安永二年八月日所右筆下石出丸
同年十二月廿七日唐米百俵納入。
明暦二年十二月日加秋百俵。寛文七

年十二月日及傳十只成加感あり。
天和元年四月五日卒。眞山右衛門。元禄
元年四月廿八日死。小菅清。同年
五月廿六日死。

勝直

源右衛門

貞享四年十月廿八日表出。筆。元禄
元年七月日家終。同八年二月日
病死。小菅清。同十八年正月十九日

死

勝久

家内

実松野孫右衛門某男

元禄十八年二月十九日卒。家終。
小菅清。正徳二年十月廿八日死。

法秋

源右衛門

其同姓与惣右衛門勝貞之男
正徳三年正月十五日。養子。家持。小
寺。信。保。九年八月十日。甲府
勤番。同年九月廿八日。出陣。○宝曆
二年三月十日。死。享年三十三。甲州東光
寺。子。安。

勝恒

安五郎

其福。爲。長。左。衛。門。爲。春。二。男。

其。子。同。年。六。月。日。辭。養。子。○宝。曆。五
年。六。月。日。家。持。甲。府。勤。番。○明。和
元年。七。月。日。家。持。上。相。湯。○天。保。三。年
西。月。廿。七。日。死。享年。三。十。三。同。寺。

勝義

長三助

天明四年三月十日。家持。甲府勤番。

天保三年九月三日初見。同年同月
廿三日新田下由之九斗、組。同年其

大猷院殿沖代
松浦
平姓
家紋
九枝三三川
鞠袴

大猷院殿沖代

松浦 言百儀十人技持



平姓 家紋 九枝三三川 鞠袴

松浦 強一郎親貞只代之孫松浦義房

親務二男

親友 松浦

安永三年九月三日初見。同年同月
廿三日新田下由之九斗、組。同年其

月七日傳十人口初八〇歳慈元孝
十二月十八日唐米百俵と賜りの寛祿
百俵十人日〇成〇明暦三年六月
日病免小菅信。寛文二年四月十八
日死後乃中教寺地中長教寺の
葬ふ

親時

長六郎

実親孫四男

寛文二年十二月九日養子家信小
菅信。同日年十二月廿〇半人組
〇病免小菅信。元禄十年十月廿六
日死同寺

貞利

源之丞 八郎左衛門

実親孫五男

養子。元禄六年十二月廿〇半人組

○同十年十月廿六日父死同言三月讣
式不執。室永元年六月晦。病免
小名重信。享保十四年九月廿七死
年一歲麻布徳養子孫

浩充

金太郎 源之丞

享保十四年十一月十日家信小名
信。同十八年八月廿九日。少人絶。
元文二年十二月二日病免小名重信。

同日年二月廿六日死早七歳同寿

良昭

狭子郎 松之丞

享保十四年正月
實良自其孫甚左衛門良政二男
養子。元文四年六月二日家信小
名重信。同年十二月廿九日。少人絶。實
保三年十二月九日。少人絶。重信
養。延享二年十月廿八日。少次郎重信

○宝曆二年十二月七日小治部卿逝
○同日二年二月朔
○同日八年十月朔
○同日九年十二月十九日
○同日十年十月十三日
○同日十二年十二月廿八日
○同日八年六月朔
○同日八年七月八日
○同日十年十月廿日
○同日十年十二月十六日

布衣○同日七年六月十八日
安清相續作
○同日八年三月朔
寛政四年九月十日
○同日七年六月廿四日
○同日十年三月十八日

義啓

仙之思

安永八年八月廿二日初日。同年十二月十九日半人組。元禄元年十二月七日西九劫。同二年十月日。上大的上院時辰二。同四年八月日。小性組。同八年二月廿九日。筋冲成之在能為心少之申の上院五劫二。寛政三年二月廿九日上少之原麻上院五劫二。同三年二月十九日。濱西成也修了多對當日共五時辰三。同七年六月三日。

東照宮時代

枚浦 高二百餘千八百人技師



藤原 家紋 九三言川

先祖不詳

墓

助左衛門

東照宮參河上清宮時出使番。小牧長久子大陣佐守。寺長八年冬別券母少之張

集

久多清

東照宮園東山入國之記に初少少く依
る事也。元長十二年西院より
出づ。大坂西陣よりハ

右徳院殿依年西陣の役後後者阿
是。元和二年西院より方二九
少く亦的作付。是後後者あり。○
右徳院殿清地界の右後後者

清佛殿西書と勅じ。西道令後
○正保二年十月十四日死。享年
小石川家系寺より後

伯江

久多清

正保二年月日家系西院より方
○正保二年死。享年七十七。元
月廿七日死。享年七十七。元

義勝

久吉坊

享和元年八月廿七日卒。家傳。正徳
元年八月廿七日卒。家傳。同年九
月冲密。少司。每夜令老物。等。相。成。
表。出。所。所。以。相。得。一。出。意。清。用。之。
勤心。正徳六年二月廿七日卒。年
八。累。回。寺。

伯方

久吉坊

竹之助

實義坊。回。男。
正徳六年二月廿七日卒。家傳。少。曾。
傳。○。家。傳。二。年。正。月。廿。七。日。死。年。十
二。累。回。寺。

某

助在

助在

宝曆三年四月之官家後小菅
○明和四年十二月廿六日
同七年正月十日
月十日
廿日
此用
此年
七月
廿六日

六月廿八日
天
同五年三月
長局
廿七日
年八月
月
新

共九、廢根五枚。同、年、二、月、廿、七、日、
川、竹、通、院、清、廟、早、午、奉、中、靈、牌、不、
主、亦、以、修、復、出、用、見、且、同、年、同、日、
廢、根、七、枚。寬、政、二、年、九、月、二、日、
書、院、遠、侍、行、之、間、亦、以、修、復、出、
用、同、三、年、十、月、八、日、廢、根、七、枚。
同、八、年、八、月、子、辰、大、稻、掛、出、修、
復、出、用、同、年、十、二、月、六、日、廢、根、七、枚。
○、同、六、年、四、月、清、籠、清、用、同、年、八、
月、七、日、廢、根、五、枚。同、年、十、一、月、廿、七、日、

小、菅、清、方、作、有、是、同、日、紅、葉、心、
清、字、出、伏、廊、下、兼、上、下、出、伏、不、在、亦、在、
出、修、復、出、用、同、七、年、九、月、廿、七、日、廢、根、
十、枚。同、年、七、月、評、定、不、白、則、旦、清、
亦、亦、出、其、所、法、出、用、在、場、子、亦、
清、用、出、修、復、中、出、場、不、敷、糶、有、引、
續、亦、亦、清、出、用、同、八、年、三、月、十、四、日、
廢、根、十、五、枚。同、年、三、月、廿、二、日、西、九、
大、奧、長、局、向、主、亦、熱、出、修、復、清、用、

同年十二月廿九日唐令一收骨形行
限十枚。同九年四月冲讓亦用同
年八月七日唐限五枚。同年十二
月晦日紅葉心

常憲院啟

有德院啟冲靈屋向王亦古亦修讓亦用

同十年十月七日唐令二枚。同年

十二月亦同所

有德院啟冲靈屋雲花門格天升水

彫物亦修讓亦用王亦亦修讓亦用同

十年七月十二日唐限十枚。同十年
三月廿七日二九亦啟向亦廣亦向亦槽
亦多門亦亦亦修讓亦用同十年三
月晦日唐令一收

東照宮御代

松浦

高二百俵

平姓

家紋

丸内横三ツ川
丸内松皮菱



松平太郎義國土代孫

幻勝

友次郎

東照宮より

大猷院殿と御代身任。享正二年春

別長藤少々成田信賴下公儀の付

父子共々修身。孝長八年、少長
少小近侍。是年、河石田治平が捕三威
送、意少く

東照宮用面清敷向之旨

右徳院殿、修身。孝長十九年、大坂の
陣の首強敵、一旅と敵、且たの
手続能く中り、之例、河治守。元和
元年、江戸に召され、と病、少く
辞退す。於て嫡男、半郎、石を以て
の名命あり、と初稚なる、の、

辞退し、是より後、江戸に召され、と命
し、送ひ、少く、是地、修身せし、是、唐菜
司、千儀、月修之、約り、富土、見九
出、為、守、在、中、為、作、付、る、。寛永七
年、三月、八日、死、七十九、歳

勝治

半郎 四郎左衛門

元和八年初見。祖父時勝、生涯、相、反

忠義英父別後若年を教養の戦切
りよりして父別後再成と意し首
くはりやまらむと云ふ。○寛永年
中新母石出さん二百俵納り重
大なる御作付を以て祖文文三氏教養
の戦切よりして此後別後石出さん
し。父別後の名取に相續す所
し。西郷令と云ふ。○同十年が
秩二百名。同五年

大猷院殿清上流の休系。同三年

七月九日病よりして自教二十八年
歳を中教守地中七教寺葵

勝定

檀三郎 采女 又左衛門

父清治自教の付二歳小女に海武の
しん家緒よりして祖父別後よりして
是より後伯父清兼より養育せしむ
又別後の様子を成。寛文三年三

月十二日 祢田ゆき

孝憲院殿 乙卯 延宝八年十月
子西丸 上水橋の河内小姓組。乙卯
三年 徳和 乙卯 延宝二年九月
女又百一統 小名 徳和。貞享二年四月
月又百一統 乙卯。元禄四年 乙卯 女
乙卯 乙卯 八歳 同寺

勝清

新十郎 孫七郎 又 左衛門 左衛門

貞享二年七月十二日 初見。元禄四
年七月 女 乙卯 徳和 小名 徳和。同寺
乙卯 十八日 相 乙卯 乙卯。同寺 同寺
月 乙卯 乙卯 乙卯。同寺 九月十八日
乙卯 乙卯。享保十八年 九月 乙卯 乙卯
乙卯 乙卯 同寺

勝年

亀助 源次郎 後次郎

実徳定二男

正徳五年八月十八日初見。享保
十二年六月十六日死同寺

勝成

後次郎

実 此年人三歳耳 大野教子某三男

享保十一年十二月十九日養子。同
十六年三月廿八日大水番。元文三
年八月十六日死年一歳同寺

勝行

又郎二郎

後次郎

元文二年十一月二日家持小名信。室
曆五年三月十六日大水番。同八年六
月廿七日死年七歳同寺

勝者

又郎二郎

宝曆八年九月二日家持小童信。
安永二年七月十二日死。年一歲。同
寺

勝親

右之助 数子 又左衛門

实向坂孫吉郎信之男

安永三年十月六日養子家持小
童信。同八年十月十三日死。年
同八年八月朔日中里北園屋敷。年

半の上寛五和二年。同十年二月
二日大の上寛时後二年。同年四
月九日。同上。同上。同上。同上。
欣。寛政七年三月八日。小令。家持
步。同八年五月廿六日。死。年
三。同寺

利明

八次郎

實向坂權六郎孫長二男
寛政八年十二月廿七日養子森徳小
曹信

有徳院殿

秋浦

高二百俵

源姓

家紋 丸内角重
丸内横三川



先祖不詳秋浦忠左衛門兼次養子
實六日浦若三郎某二男

休考

嘉吉

玄真

初紀伴大納言殿、
四ノ海

有徳院殿二九、御入、延喜元年。同年
 六月廿八日、出家。同十年三月
 八日、薨。小倉院令之教賜入。同年
 九月廿二日、没位。同十八年六月廿二
 日、七十九歳、薨。青和寺に葬。

存里

若三郎

没位

少休

享保十年九月廿二日、出家。小倉院
 同十二年三月廿七日、米入。同十三

年六月廿九日、西九出納。延喜二年九
 月廿二日、出家。同納。寛延三年
 十二月廿八日、病歿。小倉院。宝曆十
 四年九月、没位。同八年十二月廿八日
 六十九歳、同寺。

存章

若太郎

宝曆二年四月廿二日、出家。小倉院。同

八年六月廿二日西九半之延。同十一年
八月廿二日西九半之延。同年十二月廿二日
死。享年三十三。同寺。

存兼

義左衛門 赤右衛門 吾六郎

宝曆十一年十二月廿二日。赤右衛門 吾六郎
。同十二年八月廿二日。赤右衛門 吾六郎
。同十六年同十月廿二日。赤右衛門 吾六郎。寛政
八年十二月十日。

若君附。

寛政元年二月十七日。赤右衛門 吾六郎
。同十二年二月廿二日。赤右衛門 吾六郎。
同十六年十月廿二日。赤右衛門 吾六郎。

名徳院殿沖代

叔浦

言百子儀

源姓

家紋 たり二色



先祖不詳

正恭

二右衛門

元和六年八月廿九日。寛永十六年
十一月日表火之毒。明徳二年二月
日奥火之毒。寛文九年十一月日表火

○延宝三年八月九日法皇元三
十三百卷末満寺發

富之

右左衛門

寛文四年月日西院上石出七人別紙
り外約り父と表法の方之書
其より約り〇年月石紙
禁裏内多信御用と勅心〇貞亨
十月七日西院組以言百五千信約り

宝永三年九月十日石出同寺

其

右左衛門

寛文九年三月日正泰と表法揚の
り外約り父と表法の方之書

元改

小左衛門

寛永二年十一月家持小督信。正
徳八年八月廿又自死同寺

富元

右左衛門 左市郎

実富之二男

正徳八年七月廿六日養子家督

小督信。享保六年十一月四日着火

○早稲田町中野町
元文二年四月廿六日信目組

以。延享三年二月十八日小督信方

寛延元年十月廿六日上野

至心院殿御廟下水絲殿内督信出用

齋根十板。同年十二月廿六日信

得下心修復出用齋根十板。同日信

八月七日信久信心

御家心修復見分御用一七信月令

二板信後三代信心。宝暦三年二月廿

六日信久信心

御家心修復出用一七信月令三板

時後二。同十年十月八日。出後復出。用廢
令二。同九年十一月廿日。西國橋
掛。出。出。後。出。用。廢。張。千。五。枚。同十
年十月廿日。

神代智。將軍。宣。下。出。用。廢。令。二。枚
。宝曆十一年二月廿八日。出。後。復。出。不
相。應。三。月。出。後。復。出。少。香。結。入。五。枚
同十年八月十一日。出。後。復。出。同十二
年九月十一日。出。後。復。出。六。氣。同。寺

富明

右平

宝曆十一年十一月十日。家。後。小。香。結
。明和八年十二月二日。西。凡。小。十。人。組。
同八年八月廿日。病。死。少。香。結。同。寶。曆
七年十一月廿日。出。後。復。出。左。市。郎
出。後。復。出。出。後。復。出。中。揚。夜。者。出
出。後。復。出。同。月。廿。六。日。出。後。復。出。同。八。年

六月廿九日左市郎喜將作付
月廿九日喜將作付
月廿九日喜將作付
月廿九日喜將作付

富周

左市郎

寛政八年六月廿九日喜將

富久

孫三郎

寛政九年十二月十日喜將
實川村助左衛門喜將
寛政九年十二月十日喜將

東照宮御代



松浦

高百俵子人技師

平姓

家紋

九月三十一日

三浦大助義明只代松平八郎義忠
七代松浦兵部少輔正引二男松浦
五郎之郎重久系幼將軍家三任之子
惣八郎重信惣欣

重改

惣八郎

東照宮に奉仕津島押役。参州田原

少く死

某

及次郎

東照宮に奉仕津島押役。参州田原

久綱

濱邊惣次

濱邊八右衛門義経塔に成り濱邊と
稱する也

東照宮に奉仕味方原水陣の付討死

正嗣

松浦半右衛門

伯父松浦惣三流巻子と云ふ

正福

松浦五郎右衛門

天正年中兄松浦生右衛門正嗣討死
之後初年少々正嗣嫡男松浦辰九郎
恪重同松浦迎家子以養後子之正嗣
養子と云ふ

恪重

松浦左左郎 藤九郎

濱邊半藏守綱家系成

政成

松浦河内守

東照天皇奉仕多指左衛門元忠子孫
一休是築城之時討死

某

松浦久右衛門

濱邊忠七郎忠綱家系成

正嗣

正左衛門

実清子惣次久綱嫡男

东照太子奉仕大須賀五郎左衛門康高組
より一幸別言天神水陣の時討死

正福

五郎左衛門

实清边惣次久綱三男

慶長十一年出陣。石出より。同十二年
年駿府へ侍奉。同十九年大坂水
陣侍奉。元和二年

右徳院殿附。同七年焼死。同日夜侍

番。寛永十八年表大番。同

十八年奥大番。明暦二年老免

小番。寛文二年正月十二日死。东门

跡地中津正寺葬

正親

彦左

清和天皇元弘元年秋浦左大臣格
重の子孫となりて後出統上右大臣
少子孫祥なり

正信

五郎左衛門

寛文二年父跡武七千懐子人授持揚
りて小笠原信。同三年奥火之毒
。延宝三年十二月奥火之毒不月
百懐子人授持言と成。貞享二年
八月十日死。子千歳。浅草大仏の子
孫

正也

半右衛門

半云清

五郎七

貞享三年十二月家督小菅信。元
禄二年十一月出使。同七年十月
夏別大鴻上出用。同十四年八月廿日
死。年八。葬同寺。

正方

彦五郎

元禄十四年七月九日家督小菅信死。
彦五郎。同十六年四月廿八日小菅信信。

享保六年十月四日家督小菅信。同
二年四月日光社系信在。同八年
二月言支能勘定。元文四年八月廿日
清波出用。寛保元年十月延勤
。延享三年二月後河堂以参河
。夏法澤勢子。不巡息。冲用。同年
八月十日。死。年十六。葬同寺。

正武

清太郎

寛延三年八月三日家持小倉退治
明和四年九月十八日死。年四歳
同寺

正平

初心意

五郎左衛門

初

寛五郎

由院組人
實矣叔孫一為其父隆之男

明和四年二月三日養子家督小
倉退治。同七年五月十日由島見。
安永九年八月相別德念少く大筒
槍古見より所用。三の四年九月日
六年八月あき光同の所用。寛政
二年九月廿三日是村所用屋敷
定居。同六年同五月十日由島見
組頭

正英

年三助

西九興六坊

實 古田長甫傳喜之男

三郎二年十月廿二日 卷之〇月二年

八月十九日 水乃見月乃

[Faint bleed-through text from the reverse side]

常憲院殿清代

同 杉浦

橋姓

三郎百儀

家改 橋 九月廿月二日

胡解事氏後商淳田大領之妻の家
初仕淳田家断絶の時初年おく父子
離る一母之位いお賀園を立杉浦氏
と稱を初令淳地付杉浦と懸て東
懸願

三徳法眼

十月大奥御用○同十二年十二月廿六日
 出立川宮中御用○同十八年九月廿二日
 山内御用御用○同二十年十二月九日
 赤坂御用○同二十一年十二月廿六日
 松平御用御用○同二十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同二十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同三十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同四十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同五十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同六十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同七十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同八十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十一年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十二年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十三年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十四年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十五年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十六年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十七年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十八年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同九十九年十二月廿六日
 赤坂御用御用○同一百年十二月廿六日

九月廿六日一歳同守り

三三三

安民

延享元年九月九日初見○宝曆二年
 十一月九日家母御用○同七年十
 月九日中書御用○同八年九月廿一日
 赤坂御用○同九年八月廿一日
 赤坂御用○同十年十二月廿七日

出づるに元禄○寛政二年八月七日
元禄○寛政二年二月七日
元禄○寛政二年

安定

三徳 初代橋 三泉

安永七年十一月六日
分母又曰父方
あはれをわらへ何の

同年十一月九日
又曰安永○天明六年
師○寛政二年十一月
合○同母女曰
二月廿九日
人持持御○同年八月廿九日
安永七年十一月十九日
若君清之河内同○同六年十一月廿九日



法苑珠林卷之八 法世活人及



